

令和 7 年度
今治市中学生議会 会議録



令和 7 年 8 月 1 日

8月1日

出席議員	1
出席した者の職・氏名	2
議事日程	3

開会（午前9時40分）

越智 忍議長の挨拶	4
徳永繁樹市長の招集挨拶	4

開議

日程1 議席の指定	6
日程2 会議録署名議員の指名	6
日程3 会期の決定	6
日程4 一般質問	
議長 阿部寛久郎議員 質問 坪坂虹馬議員、濱川侑希議員	6
徳永繁樹市長の答弁	7
波頭 健企画政策局長の答弁	9
議長 越智心音議員 質問 野口愛夏議員、藤岡琢真議員	10
徳永繁樹市長の答弁	11
村上 彰地域政策局長の答弁	13
議長 村上奈菜子議員 質問 西部宗祐議員、村上絢亮議員	14
徳永繁樹市長の答弁	15
馬越啓之しまなみ振興局長の答弁	16
議長 松木心優議員 質問 武田健豊議員、長野水美議員	17
徳永繁樹市長の答弁	18
越智教朝交流振興局長の答弁	20
議長 川田智輝議員 質問 越智 春議員、小野香菜美議員	22
徳永繁樹市長の答弁	23
越智貴紀防災安全局長の答弁	25
議長 越智心菜議員 質問 川畑遼太議員、阿部伸一郎議員	26
徳永繁樹市長の答弁	28
浅海文明市民環境政策局長の答弁	29
議長 山本蒼空議員 質問 羽藤悠佳議員、越智果林議員	30
小澤和樹教育長の答弁	31
青野光尚教育政策局長の答弁	32
議長 友崎郁弥議員 質問 篠宮万有香議員、藤本璃乃議員	33
徳永繁樹市長の答弁	34
正岡直記健康福祉政策局長の答弁	35

徳永繁樹市長の講評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
-----------------------------------	----

閉会（午前 11 時 58 分）

今治市中学生議会 会議録

出席議員

1 番	西中学校	かわばた 川畑	りょう た 遼 太	2 番	西中学校	あ べ 阿部	しんいちろう 伸一朗
3 番	桜井中学校	たけだ 武田	けん と 健 豊	4 番	桜井中学校	ながの 長野	みな み 水 美
5 番	西中学校	むらかみ 村上	な な こ 奈菜子	6 番	桜井中学校	あ べ 阿部	かんくろう 寛久郎
7 番	菊間中学校	お ち 越智	ここ な 心 菜	8 番	玉川中学校	まつぎ 松木	み ゆ 心 優
9 番	大島中学校	ともさき 友崎	ふみ や 郁 弥	10 番	菊間中学校	つばさか 坪坂	こう ま 虹 馬
11 番	菊間中学校	はまかわ 濱川	ゆ の 侑 希	12 番	玉川中学校	はとう 羽藤	ゆう か 悠 佳
13 番	玉川中学校	お ち 越智	かりん 果 林	14 番	大島中学校	にしべ 西部	そうすけ 宗 祐
15 番	大島中学校	むらかみ 村上	しゅんすけ 絢 亮	16 番	今治明德中学校	お ち 越智	はる 春
17 番	今治明德中学校	お の 小野	か な み 香菜美	18 番	今治明德中学校	お ち 越智	ここね 心 音
19 番	立花中学校	やまもと 山本	そ ら 蒼 空	20 番	近見中学校	かわだ 川田	とも き 智 輝
21 番	立花中学校	の ぐち 野口	あい か 愛 夏	22 番	立花中学校	ふじおか 藤岡	たく ま 琢 真
23 番	近見中学校	しのみや 篠宮	ま ゆ か 万 有 香	24 番	近見中学校	ふじもと 藤本	り の 璃 乃

出席した者の職・氏名

市長	徳永 繁樹	副市長	土居 忠博
監査委員	木原 盛展	教育長	小澤 和樹
総務部長	片上 光和	総務政策局長	木村 光男
企画政策局長	波頭 健	交流振興局長	越智 教朝
防災安全局長	越智 貴紀	地域政策局長	村上 彰
しまなみ振興局長	馬越 啓之	健康福祉政策局長 (兼) 福祉事務所次長	正岡 直記
市民環境政策局長	浅海 文明	教育政策局長	青野 光尚
財政課長	越智耕二郎	財政課長補佐	加藤 教高

今治市議会

議長	越智 忍	副議長	丹下 大輔
----	------	-----	-------

市議会事務局

市議会事務局長	白石 恭一	議会総務課長	岡田 伸
議会総務課長補佐	本宮 康邦		

議 事 日 程	
(令和7年8月1日)	
日程番号	議 事 内 容
1	議席の指定
2	会議録署名議員の指名
3	会期の決定
4	一般質問

○越智忍今治市議会議長

皆さん、おはようございます。今治市議会議長の越智忍です。

今治市中学生議会の開催に当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

ようこそいらっしゃいました。心から歓迎を申し上げます。今日は今治市内の中学校を代表して、8校から3人ずつ、合わせて24人の中学生にお集まりをいただき、今治市中学生議会を開かせていただきます。

皆さんのような若い世代が、政治に関心を抱き、そして今治市議会を身近に感じてもらいたいという思いから、中学生議会を開催して、今年で7回目となりました。

皆さんは、今日の質問のために、今治市のことをたくさん調べ、将来の今治市がどうなっていきたいのか、十分考えられたと思います。皆さんの質問には、徳永市長と各局長が答えをさせていただきます。私も今日は議長席ではなく、理事者席から皆さんの質問を聞かせていただきます。応援しておりますので、頑張ってください。

結びに、各学校の先生方、そして保護者の皆様、本日は、御支援、御協力を賜りまして、心から感謝を申し上げます。

それではこれから私が、中学生議会の議長を指名して、中学生議会を進めたいと思います。議長は、桜井中学校の阿部寛久郎議員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。



○阿部寛久郎中学生議会議長

私は、初めに議長を務めます、桜井中学校の阿部寛久郎です。よろしくお願いいたします。

本日の出席議員は24名です。ただ今から「今治市中学生議会」を開会いたします。

徳永市長から中学生議会招集の挨拶があります。



○徳永繁樹市長

皆さん、おはようございます。今治市長の徳永繁樹です。議会の開会に当たりまして、御挨拶を申し上げます。

夏休みに入っています。皆さんの世代の方々が、今治市に様々な風を送ってくださっています。皆さんの先輩であるならば、昨日、愛媛県立今治東中等教育学校の生徒が、社会的な問題を自分たちで考えて答えを見いだしたことを、大阪・関西万博の場で堂々と披露していただ

きました。3月には今治市で林野火災も起こったわけでありますけども、私にかわって、消火活動に当たってくださった皆さん、加えて、お見舞いをしていただいている全国の皆さんに謝意を表していただいたと伺っております。

そして、皆さんの世代におかれましては、野球ではありますけども、今治中央ボーイズが春に続いて全国大会出場を決めたと伺っております。そして、皆さんの後輩でありましたが、これはサッカーでありますけども、昨日、大西キッカーズの皆さんが、今治市に表敬をしていただいた。今治中央ボーイズにとっても、そして大西キッカーズにおいても、ここ今治から全国に向けて、自分たちの思いを、そして情熱を傾けたいという、そんな宣言がありました。皆さんとともに応援をしていきたい、そんな気持ちであります。

皆さんにおかれましては、勉強や部活動をはじめ、様々な活動で御多用な毎日を送られていると認識しております。市内8校を代表として議員となった皆さんがお集まりをいただいて、中学生議会が開催されますこと、とってもうれしく思っております。

また、保護者の皆さん、先生方を初めとする教育委員会の皆さんにおかれましては、本議会の開催に御協力を賜り、深く御礼申し上げます。

さて、議員の皆さんは、学校の授業などで三権分立という言葉を学んでおられると思います。三権とは、国会が持つ立法権、内閣が持つ行政権、裁判所が持つ司法権の三つの権力のことを言います。現在の日本という国におきましては、この三つの権力がお互いに抑制し、均衡を保つ三権分立によって、国民の権利と自由が守られています。

一方で、愛媛県や今治市などの地方自治体におきましては、二元代表制という制度がとられています。市長と、そして議員のいずれもが、市民の皆さんから直接選挙で選ばれる制度でありまして、お互いに対等な立場で議論を重ね、市民の暮らしをよりよくしていくための政策やルールなどの重要な事項を決めていくものです。

皆さんがいるこの場所は議場と呼ばれています。ここは市民の皆さんの思いや願いを受け止め、それを市政に反映させるための真剣な議論が交わされる、言わば今治の今と未来を形成する場です。議員の皆さんにおかれましては、そうした重みのある場所に立っている、座っているということを心にとめていただいて、ぜひ堂々と発言、そして審議をしていただきますようお願いを申し上げます。

本日は今治の将来を担う皆さんが、このまちを見詰める純粋なまなざしと、柔軟な発想で、今の皆さんだからこそ見つけられるこのまちの課題や、皆さんにしか思いつかないような未来への提案を届けてくれることを私たちは楽しみにしています。ふるさと今治がさらに輝き、よりよいまちへと成長していくための貴重なヒントが皆さんの言葉の中にきっとある、そう信じています。皆さんからいただく御意見や御提言、御提案は、私たちにとっても、今治の未来を見詰め直す大切な機会です。いただいた声をしっかりと受け止め、真摯に向き合いながら、一つ一つ誠実にお答えをさせていただきますので、議員の皆さんには自分の言葉で、素直

な思いをお伝えいただきますようお願いを申し上げます。

さて、先ほど画像がありましたけども、明日からは、いよいよおんまくが始まります。今年のテーマはパッション、情熱ということでございます。祭りに関わる、皆さんの熱い思いがこのまちにあふれ、今治全体が一つになって輝く、その瞬間こそがおんまくの真骨頂。スタッフやボランティアをはじめ、今治を思う多くの方々のお支えによって、この市民の祭りが、今年も次の年も、そしてまた次の年へと未来に向けてつながっていくのです。本日の中学生議会もまた、おんまくと同じように、皆さんお一人お一人の真剣な思いや意見が今治の未来へとつながることを願っています。

中学生議員の皆さん、そして市政を預かる私どもにとって、本日の議会が実り多きものになりますことを祈念申し上げ、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。



○阿部寛久郎中学生議会議長

徳永市長、ありがとうございました。

これより本日の会議を開きます。本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりです。

また、報道機関などから申出があり、撮影を許可しておりますので、御了承ください。

日程１、議席の指定を行います。議長において、皆さんが着席しているとおり、議席の指定をします。

日程２、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、12番羽藤悠佳議員、21番野口愛夏議員、以上、2名の方を指名します。

日程３、会期の決定を議題とします。お諮りします。今治市中学生議会の会期は、本日１日限りとしたいと思いますが、御異議ありませんか。

（ 「異議なし」と言う ）

御異議なしと認めます。会期は、本日１日限りと決定しました。

日程４、一般質問を行います。質問の順番は、各議席に配付しております一般質問順のとおりです。通告者の発言を順次許可します。

10番菊間中学校坪坂虹馬議員。11番濱川侑希議員。

○坪坂虹馬議員

菊間中学校 3 年坪坂虹馬です。

○濱川侑希議員

同じく 3 年濱川侑希です。

○坪坂虹馬議員

菊間中学校は、挨拶・部活動・集団行動を三本柱に全校生徒62名が協力して、学校生活を送っています。

私たちは、SDGs への市の取組について質問します。

1 点目は、菊間中学校での学校生活を振り返った時に考えたことについて伺います。

私たちの学級では、残食を少なくするため、体調等で食べ切れない人は先に減らして、他の人におかわりをしてもらうようにしています。こうすることで残食が減っていると思います。残食を減らすことは、食品ロス削減にもつながります。食品ロスの削減は、SDGs の目標 2 の「飢餓をゼロに」と目標 12 の「つくる責任つかう責任」の項目と関連性があるのではないかと思います。そこで、今治市の学校ではどれほどの残食があるのか、また今後減らすためにどのような対策をしていくのかについて教えてください。

○濱川侑希議員

2 点目は、今治市での働きがいについて伺います。

この項目は、目標 8 の「働きがいも経済成長も」の項目と関連性があるのではないかと思います。2 年生の時に自分たちも職場体験学習をし、働くことについて意識しました。全ての人々に働きがいのある仕事を提供し、持続可能な経済成長を促進することは、地域経済の活性化にもつながります。将来、私たちのような若い世代が今治市で働くためには、働きがいがある仕事が必要だと思います。将来、今治市で働きたいと思えるための職場づくりを行う各企業団体へどんな支援を行っていますか。教えてください。

○阿部寛久郎中学生議会議長

答弁を求めます。

○徳永繁樹市長

皆さんがお住まいの菊間地区は、「加茂神社のお供馬」や、100キログラムを超える「鬼瓦神輿」を担ぐ「遍照院の厄除け大祭」など、伝統行事を大切にしている地域ですね。先日は、私の友人がお馬さんに乗って、そして結婚式をするという菊間ならではの伝統を継承している



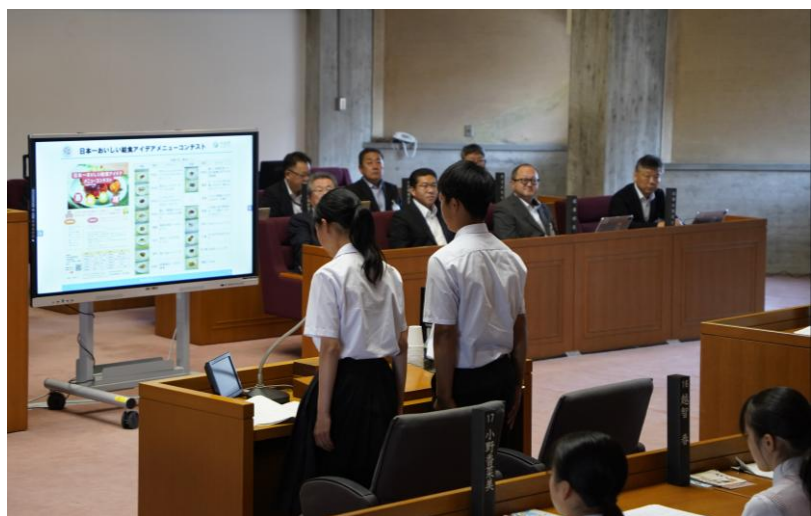
ということ、多くの報道から私も耳にしました。皆さんの学校におかれましては、伝統的に集団行動コンテストに取り組んでいただいている、今年度は全校生徒での集団行動に新たにチャレンジするなど、学校全体が心をつなげて新しいことに挑戦していることを、大変力強く、心強く感じています。

今日、お二人から、SDGsについてのお問合せがございました。世の中に「もったいない」と言われていることはたくさんあります。ものの見方をこうして見るのではなくて、そちらの方から見たとき、上から見たとき、横から見たとき、いろんな見方があるのかなというふうに思います。そして、過去の延長線上ばかりを追いかけるのではなくて、今の時代の要請に合わせて、その「もったいない」というふうなことを、皆さんの感性でどう学び、そして実践をしていくのかということが、とってもSDGsには問われているのかなと思っています。

さて、濱川侑希議員の「SDGsへの市の取組」のうち、「市内で働きたいと思える企業団体への支援について」お答えをさせていただきます。

皆さんも御存じかもしれませんが、今治には、全国に、そして世界に誇れる企業や、確かな技術と情熱を持つ人たちがたくさんいらっしゃいます。こうした地域の力を活かして、今治市では「瀬戸内の世界都市」として未来に向けてしっかりと歩みを進めようとしています。その取組の一つとして、企業の設備投資や研究への支援、専門家によるアドバイスなど、後押しをさせていただいているほか、企業の魅力を映像で紹介をする、そして若い方々に働く現場のリアルが伝わるように工夫も行っています。また、市内企業で働いてくれる人たちを増やしていったり、能力アップにつながる取組にも力を入れていて、大学を卒業した後に今治で働く人がこれまで借りていた奨学金を返すためのお手伝いもさせていただいています。さらに、AIやデジタルなど、これからの社会に必要な力を育てる学びの場づくりも進めています。一方で、今治の企業は、環境への取組にも積極的です。皆さんの地元にある太陽石油さんは、日本有数のエネルギー会社で、今治市にとって、欠くことのできない、とっても大切な会社の一つでありますけども、環境に

配慮した取組も進めています。そして、今治と言えば、世界の皆さんにお使いをいただいている今治タオルもございますね。この今治タオルの産業の工場におきましては、染色、色を染める工程で排水が出ます。この排水をエネルギーに変



える工夫も、今、検討が始まっています。こうした今治タオル産業群と今治市の構想が、国の

環境省にも評価をいただいて、今治市は愛媛県で初めて「脱炭素先行地域」に選ばれています。市と企業が連携した環境のまちづくりは、地域全体に広がりつつあります。

また、海事産業においても、愛媛大学さんが海事産業特別コースを、今回、設置する。そして、今治にも研究拠点である「今治サテライト」を設置するということも、学長から発表がありました。そうした中で、お二人の地元である菊間のお隣には、波方がありますけども、波方のターミナルにおきまして、将来の船の燃料として大変注目をされているアンモニアの受入れも検討されています。「今治サテライト」におきましては、こういった新しいエネルギーを使った船の研究も、まさに始まろうとしています。

今治市は企業の皆さんとともに、未来に向かって挑戦を続けています。皆さんが「このまちで働いてみたい。このまちで錦を織ってみたい」、そう思っただけのような、魅力ある今治、希望ある今治を、私は皆さんとともに作り上げてまいりたいと思っています。

それでは、もう一つの質問につきましては、企画政策局長からお答えをさせていただきます。

○波頭健企画政策局長

坪坂虹馬議員御質問の「学校給食の残食とその対策について」お答えいたします。

菊間中学校の残食を減らす取組は、給食を作っている調理師さんや食材を生産している方々の喜びにもつながる大変すばらしい取組だと思います。今治市では、毎日約1万1,000食の給食を提供しています。僅かながら残食がありますが、少しの食べ残しでも積み重なれば大きなロス。だからこそ、無駄なく感謝して食べる心を大切に、栄養士さんが、献立や食材の選び方、提供方法に工夫を重ねています。

また、市では地元農家や漁師の皆さんと協力して、「地産地消」の給食づくりにも力を入れています。地元の生産者を支え、環境負荷も抑えるこの取組は、SDGsの目指す「持続可能な地域づくり」につながります。先日のこと、「日本一おいしい給食アイデアメニューコンテスト」が開催され、菊間の仙高ポークとちりめんを使ったメニューなど、各地域の食材を使った15メニューが発表されました。食品ロスを減らす新たな取組も始まっています。家庭で使い切れない未使用の食材を持ち寄って、子ども食堂などに届けるフードドライブにも取り組んでいます。皆さんも是非、御協力をしてください。また、見た目の問題で市場に出せない里芋やレモンを、民間企業と連携してビールに生まれ変わらせる取組なども行っています。こうした一つ一つの積み重ねが、SDGsの実現につながる「今治らしさ」だと感じています。以上でございます。

○阿部寛久郎中学生議会議長

以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

坪坂虹馬議員、濱川侑希議員。

○濱川侑希議員

ありません。ありがとうございました。これで質問を終わります。

○阿部寛久郎中学生議会議長

以上で、菊間中学校坪坂虹馬議員と、濱川侑希議員の一般質問を終わります。

次の議長に、今治明德中学校の越智心音議員を指名します。

○越智心音中学生議会議長

議長を務めます、今治明德中学校の越智心音です。よろしくお願いします。質問を続けます。

21番立花中学校野口愛夏議員。

22番藤岡琢真議員。



○野口愛夏議員

立花中学校3年野口愛夏です。

○藤岡琢真議員

同じく3年藤岡琢真です。

私たちの学校では、生徒が中心となって学校をより良くするための取組を行っています。挨拶運動やボランティア活動、学校行事、集団行動などに、全力で取り組んでいます。また、毎年、生徒総会を実施し、学校をより良くするための話し合いを行っています。今年も全校生徒で真剣にそれぞれの課題について話し合いました。これらのことから、より良くしていきたいという熱い思いと行動が大切なのだと改めて考えました。

○野口愛夏議員

私たちは、2年生での「ふるさとキャリア教育」の学習の際、今治市に移住者が増加していることを知り、移住者の増加とまちの活性化について理解を深めてきました。

そこで、私たちは「移住者の増加に向けての取組」について2点質問いたします。

1点目です。今治市は瀬戸内海の穏やかな気候や豊かな自然、タオルや造船といった産業があり、とても魅力的なまちです。一方で人口減少に悩まされています。今の今治市にとって移住者の存在は活力の維持に欠かせません。今治市では、定住支援制度、就業支援制度など

様々な支援があると知りました。それらも含めた支援や移住者が過ごしやすい環境づくりとして、どのような活動を行っているのか教えていただきたいと思います。

○藤岡琢真議員

続いて2点目です。移住者の増加のためには外部発信が不可欠と思われます。そこで、他県の人たちに今治市の魅力を知ってもらうための活動やイベントについて教えていただきたいと思います。以上2点の質問について御回答をよろしくお願いします。



○越智心音中学生議会議長

答弁を求めます。

○徳永繁樹市長 野口議員と藤岡議員は、先週土曜日のBON BON SUMMER、立花においての夏まつり、お越しになられていましたか。皆さんより少し次の世代の方が、随分と参加をしていただいたのかなというふうに思っておりますけども、大声コンテストというのがありました。どんなことを言われるのかなと思ったら、「立花が大好きだ」というふうな、そんな少年もいましたし、どうも恋人だったのかな、「何とかちゃんが大好きだ」というふうな、まっすぐな主張もありました。そんな多くの皆さんを支えているのは、伊藤さんというおじさんであったり、睡蓮の会と言いまして、婦人会を立ち上げていただいた皆さんなのかなというふうに思います。今、私も皆さんも、そうした方にお支えをいただいているのですが、ぜひ、大きくなったときには、今度は支える側というふうなことも意識をしてほしいと願っています。

さて、立花中学校におきましては、生徒の皆さんが中心となつての挨拶運動やボランティア活動に実に意欲的に取り組んでいただいている。こう、教育長からも伺っております。生徒全員が一緒になって、現状に満足することなく、学校をもっと良くしたいという熱い思いと、地域も巻き込む、そうした積極的な行動は、学校ばかりではなくて、地域においても活性化させるエネルギーになっているというふうにも思っております。ぜひ今後も、皆さんの笑顔での様々な活動を期待するものであります。

それでは、お二人の「移住者の増加に向けての取組」のうち、「移住者増加に向けた情報発信について」私からお答えをさせていただきます。

お二人も御存じかもしれません。今治市は、「住みたい田舎ベストランキング」人口10万

人以上20万人未満のまちで、「総合」、「若者世代・単身者」、「子育て世代」、「シニア世代」の全4部門で3年連続1位を受賞しています。また、結婚、妊娠、そして出産から高校を卒業する、いわゆる18歳年度末までの様々なサービスをワンストップで見える化し、そして重点的に支えるという、今治版ネウボラという考えが、国の皆さん、多くの皆さんから御評価をいただいて、「第5回日本子育て支援大賞2024」を愛媛県内では初めて受賞させていただいているのです。そして、今治の場合は、スポーツ、カルチャー、そしてアートも熱心です。こうした部門におきましても、「スポーツ文化ツーリズムアワード2023」を受賞するなど、今治の魅力は、移住施策を含めて様々な分野で全国的に高い評価をいただいております。こうした、瀬戸内に吹き始めた新しい風を、SNSを活用し、情報発信をしているほか、県外と言いましてもいろんな方がいらっしゃいます。四国や愛媛や今治のことを全く知らない方もいらっしゃれば、皆さんや、そして私もそうでした。高校から自分の夢を追い求めて、進学をするという方もいらっしゃる。大学生で関西や関東で頑張っておられる方々もいらっしゃる。そうした方々を対象とした移住フェアであったり、今治にもともと生まれて、先ほど私が説明しましたように、今、今治市外で活躍をしている皆さんに集っていただける、「いまばりの集い」も開催をさせていただいているのですけれども、こちらにおいても、今の今治の新しい取組というのを御紹介をさせていただいております。これは、移住希望者であったり、関係していただける人口、交流していただける人口を1人でも増やしたいという思いで、様々なアプローチを、実はさせていただいております。でも、私たちの移住施策や、様々なアプローチというのは、「Z世代・α世代」といわれる皆さんのような若い世代が実はメインターゲットなんです。今日、お話をしてくださった、「ふるさとキャリア教育」を皆さん、学んでいただいていると思います。立花っていいまちだよね、今治ってすばらしいまちだね。何がすばらしいのというふうにお尋ねをされたら、皆さんの感性でつぶやいていただくことが、実は今治の魅力発信に一番大きなエネルギーになるのかなと思います。いつも私はこう言います。「徳永さん、今治ってどんどこ」というふうにお尋ねをされますと、私たちのまちは12の地域がひとつになったんです。島があつて、海があつて、橋があつて、山があつて、森があつて、平野部がある。そんな地域は全国にないでしょうというふうに、実に短い言葉で、相手に応じて



お話をするようにしているんですね。ぜひ皆さんも、そうしたことを意識をしてほしいと思います。先ほどからくり返しお話をしておりますけども、私のように、ひょっとしたら皆さんも、進学や就職で今治を離れることもあるかもしれません。でも、私たちは皆さんに戻ってきてもらいたい。戻ってきていただけるようなまちをつくっていききたいというふうに思います。私たちの坂の上の雲を目指して行うまちづくりというのは、皆さんのために行うまちづくりだというふうなことです。今月の広報いまばりの表紙、そして2面には、この市街地のグランドデザインが掲載されています。その夢の実現とあわせて、これからも市長が真ん中ではなくて、市民が真ん中、皆さんが真ん中の政治をしっかりと行っていききたい。まちづくりを行っていききたい。そして、皆さんからいつか、今治で錦を織りたいんだと思っていただけるようなまちを目指して、皆さんとともに歩みを進めてまいりたいと思います。

それでは、もう一つの質問につきましては、地域政策局長からお答えをさせていただきます。

○村上彰地域政策局長

野口愛夏議員御質問の「移住者に対する支援制度と環境づくりについて」お答えします。

今治市では、移住の相談から完了までの各段階に応じて、移住コーディネーターを中心にワンストップのサポート体制を整え、移住希望者に寄り添い、不安解消につながるような、様々な支援を行っております。でも、移住には、住まい、仕事、地域の受入体制の3つのポイントがあります。

1つ目の「住まい」については、市のホームページに「空き家バンク」を開設し、空き家を探しやすくしているほか、その購入費用や購入された空き家のリフォーム等に対する補助制度を設けています。2つ目の「仕事」については、移住希望者が市内で就職活動をするときの宿泊費や交通費の支援、また起業をされる場合の支援を行っていますが、移住者にとって最も大事なことは、移住した地域の皆さんと良い関係を築きながら「住み続けられる」ことです。そのために必要なのは、3つ目の「地域の受入体制」です。移住する地域独自の慣習に早く慣れてもらい、スムーズに溶け込む手助けをする「定住支援員」に、最近増加している外国人の方たちも含め、困り事の解決や地域住民との交流サポートをお願いしております。これからも、移住された方々に今治に住んで良かったと感じてもらえるよう、移住定住支援や受入環境の充実に取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

○越智心音中学生議会議員

以上で答弁は終わりました。再質問はありますか。

野口愛夏議員、藤岡琢真議員。

○藤岡琢真議員

ありません。ありがとうございました。これで質問を終わります。

○越智心音中学生議会議長

以上で、立花中学校野口愛夏議員と、藤岡琢真議員の一般質問を終わります。

次の議長に、西中学校の村上奈菜子議員を指名します。

○村上奈菜子中学生議会議長

議長を務めます、西中学校の村上奈菜子です。よろしくお願いします。質問を続けます。

14番大島中学校西部宗祐議員。15番村上絢亮議員。

○西部宗祐議員

大島中学校3年西部宗祐です。



○村上絢亮議員

同じく3年村上絢亮です。

○西部宗祐議員

私たち大島中学校では、学習マッチという取組を行っています。各学年対抗で平均点を競い合うことで、学校全体が勉強に意欲的に取り組めるようになりました。

私たちは島嶼部の情報発信について、2点質問します。

1点目は、「移住者に向けた情報発信について」です。住みたい田舎ベストランキングで3年連続1位に選ばれており、移住者も増加してきています。私たちがインターネットで調べると、観光客向けの情報は多く見つかったのですが、移住者向けのものがうまく見つけられませんでした。そこで、移住者向けの情報は、何を使ってどのように発信をしているのかを教えてください。

○村上絢亮議員

2点目は、「発信する情報の充実について」です。島嶼部については、特産物や観光スポットなど、様々な情報が発信されています。しまなみ海道や大三島の大山祇神社、伯方の塩な

ど、全国的に有名なものもありますが、知名度の低いものもあります。今治市として発信されている情報は、どのようにして選ばれているのか、またどこかで大きな情報としてまとまったものがあるのかどうか教えてください。以上の2点について、御回答をよろしくお願い致します。

○村上奈菜子中学生議会議長

答弁を求めます。

○徳永繁樹市長

大島中学校におかれましては、学習マッチの取組をはじめ、唯一無二と言ってもいい、島四国というすばらしい文化継承に皆さんが主体的に取り組まれていることに心から敬意を表したいと思います。



それでは、しまなみエリア、島嶼部を代表しての、村上絢亮議員、そして西部宗祐議員御質問のうち、私からは「発信する情報の充実について」お答えをさせていただきます。

今治市におきましては、昨年より、全ての職員が今治のためにとの思いのもとで、ワンチームで取り組む「戦略的情報発信プロジェクトチーム」を立ち上げ、市民の皆さまをはじめ、市内外で今治に関心がある方々に向け、今治市役所として、正確かつ分かりやすい情報を提供することを目的に、様々な視点からの情報発信に努めています。例えば、テレビもあれば、SNSもある。SNSも、インスタグラムもあればフェイスブックもあって、T i k T o kもある、ユーチューブもある。誰に何を届けたいのかということをしっかりと私たちは考えていかなければならないと思っています。そのような中で、昨年7月には新しく、「なんかいいな、今治。」というインスタグラムアカウントを開設させていただきました。このアカウントにおきましては、全国の皆さんに、今治を好きになっていただくことを目指して、地元在住のクリエイターの皆さんが、今治ならではの暮らしの風景や地元のグルメなど、日常の魅力を写真や動画を通して発信する情報を選定させていただいております。この1月には、12の地域が一つになって、大今治家が誕生して20年ということで、400日以上をかけて、12の地域にどんな地域資源があるのか。有名なことばかりではなくて、あまり皆さんが知られてないけども、すごいことってどこにあるのだろうかということを、市民の皆さんとともに探してまいりました。そうしたことも、これから分かりやすく、老壮青、各界各層に向けての情報発信をしていかなくてもならないなというふうにも思っています。また、災害というふうなことも、いつ起こるか分からない。この災害についても、しっかりと情報発信をしていかなくてもなりません。

せん。私が今治市長になって、今、5年目を迎えているのですが、最初の1年、2年だったと記憶をしております。若い職員、女性の方でありましたけども、今治の魅力をしっかりと小冊子にして、多くの皆さんにお届けしたいという提案がありました。どうしても私たちが作る観光発信の冊子というのは、だらだらと書いていて、よく分からないわけですね。それを非常にコンパクトにまとめたのが、『今治ワクワクミリオク100名鑑』、こういうものがあります。今、冊子もありますれば、電子書籍版でも御覧いただけますので、ぜひ皆さん、見てください。そして、今日、議会が終わったら、第一別館の向こう、一番奥のところのエレベーターに、『今治ワクワクミリオク100名鑑』をプリントしております。エレベーターに乗ったら、こんなに今治にはいいところがあるのかなというふうなことも感じることができますので、ぜひ、見ていただきますように、お願いを申し上げます。今日お二人は、しまなみ地域を代表するというふうな御質問でございます。私から皆さんにもお伝えしたいことがあります。実は、令和8年度には伯方島と大三島にある分校が一つになって、新しく「しまなみ高校」というのが開校いたします。そこで、全国募集に向けてPR発信をするため、両校の生徒が考え、両校の生徒が校了し、両校の生徒が作成した動画を、今から皆さんに見てもらおうかなと思います。島の魅力、そして生徒の魅力が分かるようなワクワク感を演出しておりますので、ぜひ御覧ください。

(動画 再生)

今の情報発信というのは、限られた時間の中で、ギュギュッと魅力を入れて、そしてお伝えをしていく。相手の皆さんに刺さるような、そんなコンテンツでなくてはなりません。これはよくできているなというふうに思います。今後も、こうした動画のように、今治市の魅力をより充実した情報として市内外皆さんに強力に発信をしたいというふうに思います。お二人を含めて、ぜひ若い世代の皆さんからも、地域の新しい魅力をまた教えていただき、広報発信にも御協力を賜われればというふうに思います。

それでは、1つ目の質問につきましては、しまなみ振興局長からお答えさせていただきます。

○馬越啓之しまなみ振興局長

西部宗祐議員御質問の「移住者に向けた情報発信について」お答えします。

今治市では移住を検討される方へ向けて、「いまばり暮らし」という移住専用ポータルサイトを設けています。そこには移住者の体験談や、住宅の取得やリフォームの支援制度等につ



いて詳しく紹介しています。また、東京や大阪など都市部で開催する移住フェアでの対面相談や、オンラインでの相談会の開催により、移住に向けた具体的なイメージを持ってもらえるよう取り組んでいます。その結果、令和元年度に今治市への移住者は市全体で675人、そのうち島嶼部は119人でしたが、令和6年度では、市全体で2,622人、そのうち島嶼部は327人となり、令和元年度から令和6年度で比較しますと、市全体で3.9倍、島嶼部では2.7倍と多くの方に移住先として選んでもらっています。そして、島嶼部に移住された方は、農業をされたり、魅力あふれる飲食店や宿泊施設等を開業するほか、デジタルの力を利用して、都会のオフィスに出社せず、島でリモートワークしている方など、幅広い分野で活躍され、地域の振興や活性化に非常に大きな影響を与えてくれています。一方で、移住情報が観光情報ほど目立ちにくいなど、様々な情報が必要とされる方へ届いていないという大変貴重な御提言をいただきました。今後、今治市が移住先として多くの方に選んでいただける魅力あるまちであり続けることを目指し、皆さんの様な若い世代の方々の意見も積極的に取り入れながら、市の公式ホームページやSNSを通じ、移住情報のさらなる充実と発信力の向上を図ってまいります。ぜひ皆さんのアイデアもお寄せください。以上でございます。

○村上奈菜子中学生議会議長

以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

西部宗祐議員、村上絢亮議員。

○村上絢亮議員

ありません。ありがとうございました。これで質問を終わります。

○村上奈菜子中学生議会議長

以上で、大島中学校西部宗祐議員と、村上絢亮議員の一般質問を終わります。

次の議長に、玉川中学校の松木心優議員を指名します。

○松木心優中学生議会議長

議長を務めます、玉川中学校の松木心優です。よろしく願います。質問を続けます。

3番桜井中学校武田健豊議員。4番長野水美議員。



○武田健豊議員

桜井中学校3年武田健豊です。

○長野水美議員

3年長野水美です。桜井中学校では、毎朝の挨拶運動や清掃活動に生徒が積極的に参加しています。活動を通して、全校生徒が笑顔で過ごせる学校を目指しています。

私たちは「快適なサイクルシティ」の実現について2点質問します。

1点目は「サイクリングの日常化の為に策」です。サイクリングロードでは、家族や友人とサイクリングができますが、夏は猛暑のため、サイクリングをしづらい状況にあると考えられます。休憩をする場所があることでサイクリングをしやすくなると考えられます。現在、今治市はいくつかの休憩所を設けていますが、今後の新たな対策について教えていただきたいと思います。

○武田健豊議員

2点目は「自転車通行空間について」です。現在、今治市で自転車通行空間が改善されている場所は市中心部の方に多くあると感じます。桜井地区は、自動車の通行量が多い道でも、自転車通行空間は狭い道が多いです。この空間が狭いと交通事故が発生しかねません。それに関しての対策について教えていただきたいと思います。以上2点の質問について御回答をよろしくお願いします。



○松木心優中学生議会議長

答弁を求めます。

○徳永繁樹市長

3月末の林野火災においては、皆さんのお住まいの桜井地域、そして朝倉地域、大変大きな被害を受けました。でも、そんな大変な状況にあったとしても、桜井中学校の皆さんは、お二人を含めて、学校の環境整備に熱心に取り組んでくださって、「花いっぱい運動」においては、前年度の優秀賞に続いて、今年度は最優秀賞を受賞されたと伺っています。じゃあ、あの山をどういうふう再生をしていくのか。私たちも今、林野庁、愛媛県、そして西条市、もとより地元の皆さんと一緒に、考えさせていただいているところです。ぜひ、皆さんと一緒に、これまで以上にすばらしい地域に、そして森林の再生に向けて、取り組みたいと思って

おります。

それでは、長野水美議員、そして武田健豊議員御質問のうち、私からは、「自転車通行空間について」お答えをさせていただきます。

今治市におきましては自転車のネットワーク計画というものをつくっています。まずは自転車利用の多い市内中心部などを優先しながら、整備を進めさせていただいております。それはなぜかと言いますと、危ないということは一緒なんですけども、なかなか道路の改良工事というのは、随分と費用がかかるということもあります。国からの仕送り、県からの仕送りもいただきながら、今治家のお金も拠出をしながら、まずはどこからやるのかという優先順位を付けて、整備をしています。そのような観点で、最優先で取り組んでおりますのは、ＪＲ今治駅からしまなみ海道方面へと向かう線路沿いにある道路を、自転車の専用通行区画の整備をしているということなんです。これは、もともとサイクリストの聖地、しまなみ海道がある今治市として、何か新しい特色を出す必要があるのではないかと私たちが考えました。そして、追い風が吹いているんですね。それは何かと言いますと、愛媛県知事の中村さんと、そして私のお隣に座っている土居副市長がＶｅｌｏ－ｃｉｔｙというものの誘致を頑張ってくださいました。これは、世界最大の自転車の学術会議ですね。これは、日本で行われたことがありません。今から２年後の５月に、Ｖｅｌｏ－ｃｉｔｙが愛媛県にやってくる。そして、多くの皆さんがですね、しまなみ海道を目掛けてやってくるのかなというふうに思っていて、Ｖｅｌｏ－ｃｉｔｙを開催するまでには、先ほど御紹介をしました、この改良工事は何としても終わらせたいと思っています。でも、武田議員から御指摘のように、市内においても、桜井においても、自転車で走りたいんだけど、道があまりにも狭小で危なすぎる。こんな話があるのも、私自身もよく認識をしています。今回、こういう取組を先行的にさせていただいておりますけども、最終的には今治市全域で、ゆったりとサイクリングが楽しめる、あるいは通学で学校に行けられるような、そんな通行空間を作ってまいりたいと考えています。

さて、武田議員御指摘の「危ない」という先に何があるのかというのは、やっぱり事故になってまいりますね。愛媛県においては、あまりにも交通死亡事故が続いているので、７月７日から２７日までを、「交通死亡事故多発緊急事態宣言」というものを発出して、県民の皆さん、気をつけてくださいねというお話をしてまいりました。今日、来ていただいている皆さんも、学校に戻ってお伝えをしてほしいのですけども、例えば自転車に乗るときですね、ヘルメットを被るのは、まあ、自分を守るということでは、当然ながら必要ではないのかなと思います。そして、スマートフォンを操作しながらの「ながら運転」というのは危ないですね。私も車で走っていると思うのですけども、耳のところに白いものが見えて、何かなと思うと、イヤホンで音楽を聴きながら、サイクリングをしている方もいらっしゃる。こういうふうなことも危ない。そして、お友達同士とお話をしながら、並走するというのも、やっぱり危ないですね。世に言う、自転車利用安全五則というね、自転車の交通ルールやマナーというのは、しっ

かりと守っていただきたいなと思います。先日も、しまなみエリアのおじさんやおばさんと、お話をさせていただいておりました。徳永さん、サイクリストってスピード違反はないのかなと思うぐらい、ビュッとすごいスピードで自分の前を走って、危なかったという話もあります。この辺りは、愛媛県や、そして今治市もそうなんですけども、やっぱりサイクリングに来ていただける皆さんに対してのマナーの啓発も、今治市としてはしていかななくてはなりません。桜井中学校の皆さんも、通学路の中で、例えば横断歩道が消えている、あるいは道が少し壊れている、あるいは何かの都合でよく事故が起こるというふうな、そんな危険箇所はあると思うんですね。今、朝倉地域においては、地域の皆さんや生徒の皆さんが、そうした点検をしっかりと、「MEQQE（めっけ）」というスマートフォンアプリを使って、事故にあわないでくださいね、ここはちょっと危ないので気をつけてくださいねというふうな取組なんかもしているんですね。御紹介をさせていただきますので、ぜひ皆さんの地域でも、取り入れていかれたらいいのかなというふうに思います。桜井という地域は、潮風を感じながら気持ちよく走れるそんな、桜井のサイクリングロードもありますね。ぜひ、お二人を含めて、交通ルールを順守していただく中で、地域の魅力を自転車で再発見し、そしてその楽しさを存分に楽しんでもらいたい。交通事故のない安全・安心な「サイクルシティIMABARI」を目指して、これからともに突き進んでまいりましょう。

それでは、1つ目の御質問につきましては、交流振興局長からお答えをさせていただきます。

○越智教朝交流振興局長

長野水美議員御質問の「サイクリングの日常化の為の対策について」お答えします。

近年、全国的に夏の厳しい暑さが続いている中、熱中症のリスクを考えると、日中のサイクリングはできる限り控えていただくのが安心です。私も現在55歳ですが、40年前の中学生だった頃と比べ



ましても、今の夏の暑さは格段に厳しくなったと実感しています。サイクリングをするのであれば、比較的涼しい早朝を選ぶなど、熱中症のリスクを避けるのが大切です。皆さんに安心してサイクリングを楽しんでもらえるよう、今治市内には、「しまなみサイクルオアシス」という、サイクリングの途中で気軽に立ち寄って休憩できる場所が、「コンビニサイクルオアシ

ス」を含めて80か所以上あります。それぞれのオアシスでは、休憩や給水、トイレを借りることができたり、空気入れの貸出を受けることができます。皆さんの桜井地区では、綱敷天満宮の近くにある「サクラ咲くフルーツ店」が協力してくれています。早朝にサイクリングをする場合でも、適度な休憩や水分補給、日焼け対策、熱中症予防は絶対に必要なことですので、ぜひオアシスを利用してください。その他にも、市内59か所に、暑さを一時的にしのぐために誰でも利用できる「クーリングシェルター『バリCOOL』」も開設しておりますので、クーリングダウンなどで活用してください。

サイクリングをする時には、事前にルート上の休憩スポット等を調べて、無理をせず、自分の体調をチェックしながら安全に楽しいサイクリングをしていただきたいと思います。以上でございます。

○松木心優中学生議会議長

以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

武田健豊議員、長野水美議員。

○武田健豊議員

私たちから一つお伺いいたします。V e l o — c i t y とは具体的にどのような会なのか、御回答をよろしくお願いします。

○松木心優中学生議会議長

答弁を求めます。

○越智教朝交流振興局長

お答えします。先ほど市長答弁にもありましたが、日本で初開催ということで、これが1980年に、ドイツのブレーメンで初開催となっております。欧州サイクリスト連盟が主催で進んでおります。V e l o — c i t y は自転車を活用したまちづくりに関して幅広く議論する学術会議とあわせまして、自転車に係る展示会、また市民参加型のイベントも行う国際会議となっております。世界から様々な関係者が今治にもお越しになりますので、ぜひ今治の魅力をこの会議で知っていただけたらと思っております。以上です。

○松木心優中学生議会議長

武田健豊議員、長野水美議員。

○武田健豊議員 ありがとうございます。これで質問を終わります。

○松木心優中学生議会議長

以上で、桜井中学校武田健豊議員と、長野水美議員の一般質問を終わります。

次の議長に、近見中学校の川田智輝議員を指名します。

○川田智輝中学生議会議長

議長を務めます、近見中学校の川田智輝です。よろしくお願いします。質問を続けます。

16番今治明德中学校越智春議員。

17番小野香菜美議員。



○越智春議員

今治明德中学校 3 年越智春です。

○小野香菜美議員

同じく 3 年小野香菜美です。

○越智春議員

私たちの学校では、総合学習の時間に、1 年生で環境エネルギー講座、2 年生で異文化体験講座、3 年生でボランティア講座を行っています。私たち 3 年生は先日、山火事で焼けた山の道の清掃を奉仕活動の一環で行いました。

○小野香菜美議員

そこで山火事の被害の大きさや影響に衝撃を受け、機会を設けていただいたことに感謝をしながら活動を行いました。

私たちは防災への取組について 2 点質問します。

○越智春議員

先ほど話にも出てきた清掃活動を通して、山火事に関心を持った私たちは、詳しく調べてみました。すると、火事の原因の 1 つとして野焼きが挙げられていることが分かりました。また、現在、野焼きは原則禁止されており、それを知らずに野焼きを行っている人が多くいることも分かりました。被害も、このようにアンケートに答えた人の半数以上が、ほぼ毎日被害を受けていることが分かります。そこで 1 つ目の質問です。野焼きの禁止の強化や、そのことを

住民に知らせる仕組みや取組などについて、何かお考えはございますか。

○小野香菜美議員

次に、防災の取組としては、市内では防災マップをホームページ等で逐一確認することができるが、このグラフを見て分かるように、防災マップを確認したことがない、存在を知らない人は2割います。私たちは、高齢者や児童にも分かるように、チラシと一緒に定期的に配付すべきだと考えました。そこで2つ目の質問です。防災マップの定期的な配付について、何かお考えはありますか。以上の2つの質問について、御回答よろしくをお願いします。

○川田智輝中学生議会議長

答弁を求めます。

○徳永繁樹市長

今治明德中学校の皆さんにおかれましては、このたびは林野火災で大きな被害を受けました朝倉地域において、清掃活動に取り組んでいただいたと報告を受けています。本当にうれしく思います。ありがとうございます。



今回の林野火災というのは、人間の知を越える自然の猛威を改めて気づき、そして学んだのかなというふうにも思っています。今治市においても、しっかりと検証を進め、もともと天災被災が少ない今治市ではありましたが、いつか、いつでも災害が起こるというふうな、警戒度をぐっと高めて、その備えをしっかりとしてまいろうと思っています。

それでは、越智春議員、小野香菜美議員御質問の「防災マップの配布について」のうち、私からは「野焼きの禁止への取組について」お答えをさせていただきます。

今回、480ヘクタールの森林が焼失しました。この480ヘクタールというのは、お二人も行かれているのかなと思いますけども、東京ディズニーランドでいうと約10個分に当たります。平成以降、県内最大の被害となりました。幸いなことに、火災で亡くなった方はいませんでしたけども、多くの方々が大切な財産、そして家族ですね、動物も含めて、失った方もいらっしゃいます。皆さんがお調べをいただいたとおり、林野火災の原因は「野焼き」、「あぜ焼き」、そして「たばこのポイ捨て」こういうふうなものが大きな割合を占めています。現在、法律におきましては、野焼きやあぜ焼きというのは原則禁止はされておりますものの、農業における害虫駆除や肥料などの利用などは例外とされておりますことから、野焼きやあぜ焼きを全て禁止することは非常に難しいというのが実情です。実は、皆さんがお生まれになる前に、

笠松山では大きな火災がありました。少しずつ森を元に戻していこうと、皆さんの先輩と、そして市民の皆さんが力を合わせて努力をしておったわけでありますけども、一度焼けた森を元通りにするのは、今回もお分かりのように、とても長い時間が必要です。だからこそ、私たちは、林野火災を減らすための取組、今日の御質問はすごくいい質問だなというふうに思っております。今治市においては、過去20年を振り返っても、大三島において林野火災が発生したりということで、これは何とかしなくてはなりません。現在、国におきまして、「林野火災注意報（仮称）」こういう新しい仕組みを考えてみたいというふうなことを聞いております。また、愛媛県においては、本年5月から「林野火災アラート」の運用を始め、林野火災の危険が高くなると防災行政無線などを通じて注意を呼び掛けるというふうなことをしております。これはどういう環境かと言いますと、晴天で乾燥状態が続き、そして一定の強度の風が吹く。こういうふうな環境になっている場合、それが何日も続いている場合というのは、市民の皆さんに危ないですよというふうな注意喚起をしていくという取組です。でも、今治市といたしましては、もう少し踏み込んだような対応が必要ではないのかなというふうに思っておりまして、各地域の自治会や総代さん、あるいは消防団の皆さんと一緒に、「火災警戒リーダー」という役職を作り、「自分たちの地域は自分たちで守っていただく」という基本姿勢のもとで、地域の見守りをやってもらおうかなということを今、考えているところであります。今治市としまして、林野火災の起きる原因や防ぐ方法について一層深く検証を重ねていきたいと思っておりますけども、豊かな自然とともに、誰もが安心して暮らせるまちであり続けていくためには、大人の私たちばかりではなくて、若い皆さんも、このまちの課題に今日と同じように向き合っていていただいて、今日と同じように行動を示していただけることが、今治の未来を支える一番の力になるのかなというふうに思っています。幸いなことに、来年の春には、皇室がお成りの中で、全国植樹祭が愛媛県で行われます。今治市はサテライト会場の1つになっております。今の想定では、イオンモール今治新都市さんですね。あの中に、来年の3月にはしまなみ木のおもちゃ美術館という、皆さんの心をときめかせるような場所ができます。大体、そこをというふうにも思っておりましたけども、そこプラス、今回焼失した森についても、皆さんや、あるいは企業の皆さん、そして市民の皆さんと一緒に、山の再生が行えるようなことも、私としては考えてみたいというふうなことも思っております。そうしたときには、ぜひ、高校に



進学していたとしても、帰ってきて、協力をしていただいたらなというふうに思います。

2 番目の質問につきましては、防災安全局長からお答えをさせていただきます。

○越智貴紀防災安全局長

小野香菜美議員御質問の「防災マップの定期的な配布について」お答えさせていただきます。今治明德中学校の皆さん、災害リスクを知る第一歩である「防災マップ」に着目していただき、ありがとうございます。今治市では、災害の種類で分かれていたものを、陸地部・島嶼部ごとにまとめた防災マップを作成し、令和4年7月、市内の各家庭に配布させていただきました。しかし、皆さんが調べていただいたように、2割、5世帯に1世帯の方が知られてなかったとか、見たことがなかったというのは少し残念な思いもいたしますけれども、そういったこともあって、今治市では紙の冊子ではなく、スマートフォンなどで見られるデジタル版の整備や、多言語対応、ハザード情報を一括印刷できる機能の強化などを進めてまいりました。もし、地震や大雨といった自然災害において、自分のまちの災害リスクを知っておけば、助かる命もあります。つまり、皆さんからの、「高齢者や子どもにも分かるよう、チラシと一緒に定期的に配布すべきだ」という御意見は災害時に助けを必要とする方々への心温まる提案であり、まさに本質を突いたものだと思います。しかし、危険箇所や災害リスクは地域ごとに異なるため、全ての地域に「定期的に配布する」というのは、なかなか難しいのが現状です。そのため、今治市では出前講座やラジオ番組などにおいて防災マップを皆さんに知っていただけるよう、周知活動に取り組んでいるほか、市役所や支所の窓口でもマップを印刷し、説明しながらお渡しできる体制を整えております。今回、いただいた御意見をもとに、9月号の「広報いまばり」にも二次元コードを掲載するなど、市民の皆さんがデジタル版を目に触れやすくなるようにしてまいります。防災意識というのは、行政だけで高まるものではなく、一人一人が「自分の命は自分で守る」という気持ちを持ち、その意識が家族へ、そして地域へ、そしてまち全体へと広がっていく。そうしてはじめて、「災害に強いまち」ができるのだと思います。今日こうして真剣に防災について考え、提案をしていただいたこの議会をきっかけとして、私たちと一緒に今治地域のディフェンス力を高めていきましょう。以上でございます。

○川田智輝中学生議会議長

以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

越智春議員、小野香菜美議員。

○小野香菜美議員

私たちから1つ質問します。各家庭に配布した総合防災マップは、どれぐらいの費用がかかったのですか、教えてください。

○川田智輝中学生議会議長

答弁を求めます。

○越智貴紀防災安全局長

小野議員の再質問にお答えいたします。令和4年7月に配布いたしました防災マップにつきましては、全戸配布約7万5,000部を作成いたしまして、その作成費用につきましては、2,496万8,000円です。また、全戸配布に要した経費といたしまして953万8,000円となっております。以上でございます。

○川田智輝中学生議会議長

越智春議員、小野香菜美議員。

○越智春議員

ありがとうございました。これで質問を終わります。

○川田智輝中学生議会議長

以上で、今治明德中学校越智春議員と、小野香菜美議員の一般質問を終わります。

次の議長に、菊間中学校の越智心菜議員を指名します。

○越智心菜中学生議会議長

議長を務めます、菊間中学校の越智心菜です。よろしくお願いします。質問を続けます。

1番西中学校川畑遼太議員。2番阿部伸一朗議員。



○阿部伸一朗議員

西中学校3年阿部伸一朗です。

○川畑遼太議員

同じく3年川畑遼太です。

○阿部伸一朗議員

現在、私たち西中学校では、ジェンダー平等とLGBTQ+の問題について学び、性の多様性について配慮した新制服の改正に取り組んでいます。この学習を通して、自分らしさを主張できること、カミングアウトには相当な勇気があること、日常生活の中に理解されない不安があるなど、たくさんの悩みがあることを知りました。

そこで、私たちは、人権と多様性について2点質問します。

1点目は、「今治市の多様性の理解促進のための支援について」です。これまで多くの学校では名簿や制服などで男女を分けることが一般的で、LGBTQ+の方々にとって生きづらい環境になっていました。私たち西中学校では、名簿は混合名簿に変更しており、また令和9年度から新制服の採用を予定しています。学校として多様性を尊重する動きが始まっている一方で、社会全体ではまだ課題が多くあると思います。教育の不足から誤解や偏見があり、地域社会から排除されるケースもあるかと思います。一人で悩んでいる人がいる中、今治市として、この人たちを支援するための場所や団体などがあれば教えていただけますでしょうか。

○川畑遼太議員 2点目は、「今治市共に生きる社会づくり条例について」です。「人権宣言都市」を宣言している今治市として、同性パートナーが法律上認められないなど、LGBTQ+の方々は多くの壁に直面することがあります。社会全体で多様性を認め合える環境が必要です。全ての人が自分らしく生きられる社会の実現に向け、条例第6条共生社会について、どのような広報活動を行っているのか、また同性婚が認められていないため、今治市は法的な保障としてどのようなことに取り組んでいるのか具体例を教えてください。以上、2点の質問に御回答をお願いします。



○越智心菜中学生議会議長

答弁を求めます。

○徳永繁樹市長

西中学校生徒会におかれましては、校則の見直しを進める中で、男らしさや女らしさを強調する制服そのものの在り方に疑問が生まれ、性的少数者への理解を深める学習活動に生徒の皆さんが主体的に取り組んだ結果、今治市では立花中学校に続き、全ての生徒が自分らしくいられる制服を選ぶことになったと伺っています。多様な性の在り方を理解し、後輩たちのために

新しい伝統を築いていこう、創っていこうという生徒の皆さんの姿勢に頼もしさを感じています。

それでは、川畑議員、阿部議員御両名からの御質問のうち、私からは「今治市の共生社会の実現に向けた広報活動」についてお答えをさせていただきます。

今治市では、年齢、性別、性的指向や性自認、障害の有無及び国籍や文化的な背景など、異なる全ての方が、一人一人の多様性を尊重し、お互いにその人らしさを認め合い、生涯にわたって安心して暮らすことのできる社会を目指して、昨年12月に「今治市共に生きる社会づくり条例」をつくりました。これまで、広報誌やSNS、多言語での情報発信、人権研修やイベントなどを通じて広報を続けてまいりましたが、中学生の皆さんにも十分に伝わるような周知方法を考えていく必要があると認識しております。今後は、学校内での掲示や、分かりやすくまとめたリーフレットなどを通じて、本市の取組をもっと身近に感じていただけるよう工夫してまいります。

次に、「同性婚が認められていないことに対する今治市の法的な保障」についてお答えします。皆さんは、社会科の授業で日本国憲法を学習されていると思います。憲法第24条におきまして、婚姻は「両性」、つまり男女の合意によって成り立つと決められています。現在は、法制度の壁により同性同士の婚姻は認められておりませんが、今治市では、この障壁を取り除く制度としまして、令和5年4月、「今治市パートナーシップ宣誓制度」を導入してございます。一方または双方が性的少数者であるお二人が、お互いを人生のパートナーとすることを宣誓することで、家族として、市営住宅の申込みや病院での手続などを行なうことができるようになります。性の在り方は多様でございます。一人一人異なります。それぞれの大切な個性としてお互いに認め合い、尊重することで、ふるさと今治がこれからもずっと住み続けたいというふうに思っていただけるよう、市民の皆さんと一丸となって、共生社会の実現に向け、着実な歩みを続けてまいります。

1 番目の質問につきましては、市民環境政策局長よりお答えをさせていただきます。

○浅海文明市民環境政策局長

阿部伸一郎議員御質問の「性的少数者を支援するための場所や団体」についてお答えいたします。

性的少数者の方が御相談いただける場として、愛媛県が「L G B T Q電話相談」を設けております。なお、今治市では、現時点で、性的少数者に対する支援を目的とする団体はありませんが、支



援する場所として、市役所の市民が真ん中相談センターで「こころの健康お悩み相談」を、毎週木曜日17時まで開設しており、プライバシーに十分配慮した上で心理カウンセラーが対面または電話で相談に応じていますので、お気軽に御利用いただけたらと思います。性的少数者だけではなく、様々なバックグラウンドを持つ方々が、お互いにその人らしさを認め合い、今治家の家族として、誰もが安心して暮らせる環境を引き続き準備してまいります。以上でございます。

○越智心菜中学生議会議長

以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

川畑遼太議員、阿部伸一郎議員。

○阿部伸一郎議員

質問があります。パートナー宣誓制度とは、どのような手順で行うのでしょうか。

○浅海文明市民環境政策局長

パートナーシップの宣誓制度につきまして、まずどのような要件が必要であるか御説明いたします。

まず、双方が戸籍上の同姓であること。双方が成年に達していること。そして双方が今治市に住所を有している。双方に配偶者がいない、または双方が宣誓しようとするもの以外のものを宣誓していない方、民法に規定する婚姻をすることができないとされている者同士の関係にない、そういった要件がございます。手順といたしましては、窓口が、今治市の市民参画課のほうになります。それで、宣誓予定日の原則1週間前までに予約をしていただくことになります。予約日時には2人そろって来庁していただき、パートナーシップ宣誓書に署名等の記入をしていただきます。そして、書類に不備や不足がなければ、パートナーシップ宣誓受領書そして宣誓書の写しを交付します。以上簡単ではございますが、パートナーシップ制度の手続の

御説明でございます。

○越智心菜中学生議会議長

川畑遼太議員、阿部伸一朗議員。

○川畑遼太議員

ありがとうございました。これで質問を終わります。

○越智心菜中学生議会議長

以上で、西中学校川畑遼太議員と、阿部伸一朗議員の一般質問を終わります。次の議長に、立花中学校の山本蒼空議員を指名します。

○山本蒼空中学生議会議長

議長を務めます、立花中学校の山本蒼空です。よろしくお願いします。質問を続けます。

12番玉川中学校羽藤悠佳議員。13番越智果林議員。

○羽藤悠佳議員

玉川中学校3年羽藤悠佳です。

○越智果林議員

3年越智果林です。

○羽藤悠佳議員

私たちの学校では、食品ロスの軽減のために「ぴかりんピック」という玉川中学校独自の取組を行っています。この取組は、学年対抗で食缶や角缶の中をどれだけ残さずきれいにつぎ分けることができたかを競い合い、1位になった学年には表彰状が送られます。この取組を通して、毎日残さずきれいにつぎ分けようと、食品ロスへのモチベーションが高められています。

そこで、「私たちは学校給食の質向上について」、2点御質問します。

1点目は「原材料の高騰における、学校給食の質の維持、向上について」です。最近、ニュースで原材料の高騰について話題に上がっています。特に卵や小麦粉等の原材料の高騰が続くと、コストを抑えるために給食の質が下がるのではないかと心配しています。原材料高騰の



中で、学校給食の質の維持、向上について、今治市が行っている取組を教えてください。

○越智果林議員

2点目は「給食費の負担について」です。家庭の経済状況によっては、給食費が大きな負担になります。一部の地域では、既に給食費の補助制度が実施されています。今治市では、全ての子どもが平等に給食が食べられるよう、給食費の無償化や支援制度の更なる拡充を今後検討される予定はありますか。以上2点の質問について、御回答をよろしくお願いします。

○山本蒼空中学生議会議長

答弁を求めます。

○小澤和樹教育長

玉川中学校では、1年生から3年生までが2つの「団」に分かれ、学校行事や生徒会活動を行っていると思っています。団活動を通じて、リーダーシップや団結力を育む貴重な活動であると感じています。また、来週開催される「ザ・BON・フェスタ」に向け、地域から講師をお招きし、「玉川慕情」の練習に取り組んでいると聞いています。当日は皆さんの息の合った踊りで地域を盛り上げていただくことを期待しています。

さて、羽藤悠佳議員御質問の「学校給食の質向上について」の1番目「原材料の高騰における、学校給食の質の維持、向上について」お答えさせていただきます。玉川中学校では、独自に「ぴかりんピック」を開催し、食品ロス削減に取り組んでくれていることを御紹介いただきました。大変ありがたい取組であり、学校給食に関わっていただいている地元の農家の方々をはじめ、調理場の栄養士・調理員にとっても、大いに励みになると感じています。原材料の高騰の状況についてですが、令和6年4月と令和7年7月時点の食材費を比較すると、御飯1杯分は38円から53円に、今治市産小麦を原材料としているコッペパンは、1個61円から67円に、卵についても、Mサイズ1パック243円から321円に高騰しています。先日、福岡市の小学校で出された「唐揚げ1個の給食」がSNS上で話題となり、給食について注目を浴びることとなりました。そんな中、TBSテレビにおいて本市の常盤小学校調理場の取組が取り上げられました。物価高騰下の中でも、調理場の栄養士が「日本一おいしい給食」を作るため、手作り調理を基本とし、原価も安く抑えることができていることなどが全国に紹介されました。その他の取組として、料理によっては、ほうれん草の代わりに小松菜を、鶏肉は、もも肉よりむね肉を使用することで、少しでも安い値段で代わりとなる食材を使用し、給食の質を落とさないよう、できる限りの努力と工夫を重ねています。引き続き今治市における給食の質の維持・向上を目指し、「日本一おいしい給食」を皆さんに提供できるよう頑張っていきます。

2番目の御質問につきましては、教育政策局長からお答えさせていただきます。

○青野光尚教育政策局長

越智果林議員御質問の「給食費の負担について」お答えをさせていただきます。今治市の学校給食費は、令和6年4月分から、小学生については1食当たり50円増の270円、中学生については、55円増の305円となっています。この給食費の負担増や子育て支援への対応として、国の交付金を活用し、今治市においても1食当たり20円の補助をすることで、実際の負担額は、小学生250円、中学生285円となっており、愛媛県内の11の市の中でも、安い水準となっております。なお、今治市の学校給食では、お米は100%今治市産の減農薬米を、パンについてもほぼ今治市産の小麦を使用しています。野菜については、地元産の有機野菜を積極的に取り入れています。愛媛県産と比べると価格は少し高価であるため、差額については今治市が負担しており、安全安心で地元のおいしいものを食べてもらいたいという思いから、地産地消を積極的に進めています。玉川中学校で育てていただいている、サツマイモやきゅうり、ピーマンなども、給食の食材として大切に活用させてもらっています。また、経済的な理由により給食費の支払いが難しい場合には、申請により給食費を援助する制度もあり、皆さんが安心して給食を楽しめる環境が整っております。現在、東京都など、お金に余裕のある自治体では、給食費を無償化しています。国においては、教育の格差の改善や子育て支援の観点から、令和8年度から、全ての小学校の学校給食費を無償化しようとする検討が行われているところであり、今治市においても、国の動きをみながら、御家庭の負担を減らせるような取組を検討していきたいと考えております。以上でございます。

○山本蒼空中学生議会議長

以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

羽藤悠佳議員、越智果林議員。

○羽藤悠佳議員

ありません。ありがとうございました。これで質問を終わります。

○山本蒼空中学生議会議長

以上で、玉川中学校羽藤悠佳議員と、越智果林議員の一般質問を終わります。

次の議長に、大島中学校の友崎郁弥議員を指名します。

○友崎郁弥中学生議会議長

議長を務めます、大島中学校の友崎郁弥です。よろしくお願いします。質問を続けます。

23番近見中学校篠宮万有香議員。

24番藤本璃乃議員。



○篠宮万有香議員

近見中学校3年篠宮万有香です。

○藤本璃乃議員

同じく藤本璃乃です。

○篠宮万有香議員

近見中学校では、1学期に空き缶を再利用して学級旗を制作しました。毎年、各クラス1,500個ずつの空き缶を回収し、色を塗り、校舎につり下げる空き缶アートに取り組んでいます。近くを通りかかったときは、ぜひ眺めてください。

私たちは「お年寄りが楽しめる場所について」、2点質問します。

まず1点目です。現在の今治市は、2023年度から公園が増加していると知りました。そのことを知って私は、子どもが楽しめる場所があっても、お年寄りが楽しめる場所はそう多くないのではと思いました。そこで、今治市が、お年寄りが楽しめるために取り組んでいることを具体的に教えていただきたいと思います。



○藤本璃乃議員

2点目の質問は「交通手段について」です。私の祖母は、免許を持っておらず、足が不自由なため、交通手段に制限があります。そして、今治市の高齢者で免許を持っている人は、3人に1人しかいないそうです。また、路線バス廃止後に、乗合タクシーが一部の地域で設けられました。しかし、私たちが住む近見地区にはなく、停留所から停留所間のみの運行になります。乗合タクシーが設けられてい

ない地域に住む高齢者の方について、これからの取組で考えていることはありますか。以上で私たちの質問を終わります。よろしくお願いします。

○友崎郁弥中学生議会議長

答弁を求めます。

○徳永繁樹市長

近見中学校の皆さんが取り組んでいただいている、普段は捨てられるはずの空き缶を美しいアート作品に変身させる空き缶アートという取組は、リサイクル活動を通して環境を大切にする気持ちが行動に表れているすばらしい取組です。こういった、物の価値を見直し、新しい命を吹き込む発想力は将来きっと大きな力につながると思います。

それでは篠宮万有香議員、藤本璃乃議員御質問のうち、私からは「交通手段について」お答えをさせていただきます。

今治市では、市民の大切な足となる公共交通の空白をなくすことがとても大切であると認識しています。朝倉、吉海、玉川地域でみんなが一緒に使える「乗合タクシー」を運行していて、10月から路線バスがなくなる予定の菊間地域におきましても運行の準備を進めています。でも、実は、今治市内には、もともとバスなどの公共交通がない地域もあって、毎日の移動に困っている人が多数いらっしゃいます。また、バスやタクシーがある場所でも、運転手の皆さんがお年を召されたり、人手が足りなくなったりしていて、このまま続けるのが難しくなるかもしれません。だから、移動に困っている人のために何ができるのかを考えるときには、バス会社やタクシー会社だけでなく、地域の人みんなで協力して、今治の交通の問題を解決したらいいか一緒に考えていくことが大事だと思っています。その1つのアイデアとして、住民の皆さんが、自分の車を使ってタクシーのように運行する「公共ライドシェア」というものがあります。今治市としても、このように地域の人みんなで協力し合いながら「守り・育てる」交通体系づくりを応援してまいりたいと考えています。そして、ほかの地域のよりよい取組も参考にしながら、少しでも市民のみなさんが安心して移動できますよう、これからも取組を続けて



まいります。

1つ目の質問につきましては、健康福祉政策局長からお答えさせていただきます。

○正岡直記健康福祉政策局長

篠宮万有香議員御質問の「お年寄りが楽しむために取り組んでいることについて」お答えさせていただきます。

今治市では、高齢者の皆さんが楽しい時間を過ごして、元気でいられるように、公民館やクアハウス今治などで健康づくりや認知症を防ぐための教室や講座を開いています。また、スポーツやレクリエーションを通じて、体や心を元気にしたり、人との交流を広げたりする「老人クラブ」の活動も応援しています。こうした取組に参加した高齢者からは「友達ができて楽しい」「外に出るきっかけができた」といった、うれしい声がたくさん届いています。また、子どもからお年寄りまで楽しむことができる「eスポーツ」に力を入れていて、今治市総合福祉センターや大三島公民館などに、体験できる場所を用意しています。昨年度は高齢者の全国大会である「ねりんピック」のeスポーツ部門に、今治市から愛媛県代表として、「チーム別宮」の皆さんが出場し、健闘してくれました。中学生の皆さんもeスポーツを通じて世代を超えた交流をしてみたいはいかがでしょうか。高齢者が元気で過ごすために、私たち一人一人にもできることがあります。例えば、御近所のお年寄りに「おはようございます」「こんにちは」と声をかけてみるのも、その一歩です。今治市としても、人生100年時代と言われる今、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう様々な取組を続けていきます。以上でございます。

○友崎郁弥中学生議会議長

以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

篠宮万有香議員、藤本璃乃議員。

○篠宮万有香議員

ありません。ありがとうございました。これで質問を終わります。

○友崎郁弥中学生議会議長

以上で、近見中学校篠宮万有香議員と、藤本璃乃議員の一般質問を終わります。これで、全ての一般質問が終了しました。

徳永市長から、今日の今治市中学生議会の講評をいただきたいと思います。徳永市長よろしくをお願いします。

○徳永繁樹市長

閉会に当たりまして、講評を含め、御挨拶を申し上げたいと思います。

本日、中学生議会に臨まれました16名の議員の皆さん、そして議事進行を担ってくださった8名の議長役の皆さん、本当にお疲れさまでございました。各校を代表して、真剣な姿勢で議場に立つ皆さんの姿に、大変大きな感動を覚えました。改めて感謝とともに敬意を表し上げておきたいと思います。

今日の中学生議会におきましては、SDGsの取組や多様性への理解、また地域が抱える様々な問題に対して、中学生ならではの新鮮な視点と鋭い感覚、そして軟らかい感受性を持って、どの質問からも、今治をもっとよくしたいという強い思いが伝わってまいりました。皆さんの真摯な気持ちにお答えをするため、私たちもしっかりと準備をし、そして答弁をさせていただきました。今日の備えについても、私たちが意を用いたところもたくさんございます。それは何か。やさしい日本語で皆さんにお伝えしようということです。単に質問するのではなく、単に無機質にお答えをするのではなく、皆さんの目線に合わせたような表現を使う、皆さんの日常にあることを、しっかりと認識をし、私たちは準備をさせていただいたつもりです。皆さん、これからいろいろ成長していくんだろうというふうに思います。私も、そして皆さんが生きているこの時代も誰もが経験したことのない、とっても難しい時代です。過去の延長線上を走ったところで、過去の成功体験を高らかに声高にお話したところで、これからの時代は通用しません。いつも児童生徒の皆さんにお話をさせていただいているのですが、前が見通しにくい時代だからこそ、様々な課題を自分事としてしっかりととらえていく、そして課題を見いだしていくということも大事なんですけども、答えが出にくい問題に対して、どう考え続けていくのかということが、実は私は大切ではないのかなあというふうに思います。だって、AIもDXもここまで進展してきています。算術を覚えるということも大切かもしれませんが、私もみんなも感情を持つ人間です。人間としての感情、豊かさというふうなことをぜひ皆さんには学んでいただいたらなというふうに思っています。そして、55歳になった徳永からして、今の今治はとってもいいまちだなあというふうに思ってるんです。18歳や20歳のときにはなんにもないまちだなあと思っていました。変化のないまちだなあというふうに残念に思っていました。だから、私は進学をして外に就職をしました。でも、ふるさとで錦を織ってみたいというふうな思いが芽生えて、妻とともに愛する今治に帰ってきました。じゃあ、自分で何ができるのか、浅学非才、勉強もしてないし、そんなに賢い人間でもないけども、みんなに教えていただきながら、自分が世の中の道具として頑張ることができるのではないかというふうに思って、努力を重ねてきて、今があります。今、今治市は県内の中でも、とっても勢いがあるというふうに言ってくれる、そんな評価をいただけるようなまちになりつつあります。これも市民の皆さんのおかげです。ぜひ若い感性で、これからの今治のために何ができるのか、どしどし、私たちに、今日と同じように提案をしていただきますようお願いを申し上げます。

ます。

少し私から皆さんに報告があります。

明日からおんまくがあるということで、開会の御挨拶のときに申し上げました。時を同じくして丹下健三世界のT A N G E-特別展も開催します。こちらは世界的建築家であって、今治で幼少期を過ごされた丹下健三先生の功績を顕彰する事業の一環として開催するものです。丹下先生は国立代々木体育館や広島の平和祈念公園、そして前回の大阪で行われました万博など、世界的に有名な建築作品の設計を手がけておられて、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリツカー建築賞を日本人として初めて受賞された人です。今から70年以上前、私が生まれるずっと前なんですけども、当時田坂敬三郎という方が今治市長をお務めでした。この方が幼なじみであった丹下先生に戦後復興のこのまちの未来を託したわけなんです。そして、今、皆さんとともに、今日は議場にいますけれども、市庁舎や公会堂、市民会館など多くの建築群を今の今治に残していただいています。まさに世界のT A N G Eが息づく、そんな町ではないのかなあというふうに思います。玉川の近代美術館におきましては、昨年パリの日本文化会館で、明治神宮の内苑外苑の大きな模型を私、見させていただききました。今治の人に見てもらいたいと思って凱旋展で、今回、玉川近代美術館で展示をさせていただきます。そして、市民会館での丹下健三展におきましては、中心市街地、今回のために新しい模型をつくって、よく鳥の目を持って物事を見てくださいと言いますが、私たちは鳥ではないからそんな、空を飛ばませんよね。空を飛べるように、そんな模型をしつらえています。このまちがこれからどういうふうに進化をしていくのか。皆さんが30歳ぐらいになったときに、ああ、徳永市長と、そして議会でいろんな意見をしたらけども、あの時に丹下健三展の話をしてたなあ。今、順番で行われているまちづくりはあのときから始まったなあというふうに、皆さんが振り返って思っただけのような、私たちは思いを込めて、今回3会場で丹下展をさせていただきます。ぜひ皆さんお友達と、そして御家族と来ていただければというふうに思います。

最後に、中学生議会の開催に当たり、お力添えをいただきました全ての関係の皆さんに心からなる御礼を申し上げまして、閉会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。短い時間ではありましたが、お互いに大いなる気づきと学びがあったなあというふうに思います。本当に皆さん、ありがとうございました。

○友崎郁弥中学生議会議長 徳永市長、ありがとうございました。

以上で、本日の日程は全部終了しましたので、今治市中学生議会を閉会します。

